



好調をキープし予選9位、洗礼を浴びた決勝18位

予選 9位 /34台中 2'45.598 (TOP +2.688) ▶ 10月4日(土) 11:50 開始

T2 FACTORYは、2019年の開設時より「TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup」に継続参戦しており、社員で専属チーフエンジニアの大橋孝行が組み上げた56号車「栃木トヨタT2FACTORY BS GR86」に、社員ドライバーの鶴賀義幸が搭乗しています。また、毎戦ごとに各店舗からエンジニア2人がメカニックとして帯同し、レースを通じて技術を磨いています。

去る10月4日(土)～5日(日)、シリーズ第6戦「鈴鹿サーキット」(以下、「鈴鹿」)大会が開催されました。前回大会からマシンを新車に入れ替え、成績は上向しましたが、レース中のアクシデントによりボディ右側面を大きく破損してしまいました。今大会まで短い間隔でしたが、弊社B Pセンターの素早い板金塗装作業により修復され、無事に参戦することができました。

今回は水・木曜日に練習走行が無く、当チームは月曜日に設定されていたスポーツ走行から練習を開始し、修復した車両のチェックと事前テストを行いました。車両は問題なく走行し、順調にテストメニューを進めることができました。週を通して晴天と降雨が繰り返され、本番の路面を正しく想定することが難しい状況だったため、走行中はくまなく情報収集をし、判断材料を増やすことを念頭にテストを進めました。3日(金)は曇り空の下、特別スポーツ走行と専有走行の2本を走行しドライ路面での走行データは揃いましたが、予選本番は雨の予定となっていたため、可能な限りマシンを温存して備えました。

4日(土)は早朝から雨が降り、肌寒い日となりました。直前に行われたクラブマンシリーズの予選では小康状態だった雨が徐々に強まる中、プロフェッショナルシリーズの予選が開始されました。雨量の増加を見計らって、多くの車両はタイヤの熱入れに時間がかかるため開始と同時に走行を始めました。当チームもその走行列へ入りコースインしましたが、あらゆる場所でハイドロプレーニング現象によって滑り、想定以上にペースを上げられないため、一度ピットへ戻りセッティングを調整しました。鈴鹿はコース長が長いので、同じ15分間の予選でも他のサーキットと比較し走行できる周回数が相対的に少なくなります。調整を終えて再度コースインし走行を始める頃、残り時間は4分で暫定順位は22位、可能なタイムアタックは1周のみという状況になりました。多くのチームがぶっつけ本番で雨の難コンディションに挑んでいたほかタイヤ銘柄によってのパフォーマンス差も顕著になり、当チームは月曜日に雨を体験した上でウェット路面に強いブリヂストンタイヤを装着するため、追い風となりました。走行中止も危ぶまれるほど雨が強まり、僅かなミスでもコースアウトを免れない危険なコンディションでしたが、他車との間隔を開けてミスなく走行し、予選終了時間と同時に9番手のタイムを計測することができました。決勝レースは5列目外側の9位グリッドからスタートすることになりました。



5日 (日) の決勝日は、朝から濡れていた路面が乾き始め、ドライ路面となりました。セッティングは完全なドライに合わせ、序盤から順位を守る予定でした。しかし、開始時間が迫るとともに、空を覆っていた薄い雲がやや厚く暗くなり、決勝中の波乱を予感させました。スタートシグナルが点灯する頃には霧雨が降り始め、グリップのあるレース序盤でいかに順位を上げられるかが問われるレースになり、その条件を理解しているコース上の各選手の熱量は高まりました。

スタートは外側のポジションをキープし、第1コーナーへ進入しましたが、ハードに攻める他車にコース端に追い詰められ第2コーナーで痛恨のコースオフを喫し、空いたスペースに次々と入れられ順位を落としてしまいました。当車はタイムロスなくコースへ復帰できましたが、激しいポジション争いの最中2台がコース外へと追いやられクラッシュし、セーフティカーが導入されました。怪我人はなくレースは再開されましたが、コース後半セクションでは雨が強まっており、全車が滑りやすい路面に足をとられ膠着状態となりました。その後雨はコース全体へと広がり、ドライセッティングのグリップする範囲を外れ、ペースを上げることができずにじりじりと後退しました。しかし、滑りやすく狭い道幅での位置取り合戦に苦戦しながらも1レースぶりに完走し、無傷の帰還を果たすことができました。

今回のレースには、当活動に参加経験のあるエンジニアリーダーと、初参加ながら学生時代に86レースへ参加経験のあるエンジニアの計2名が参加し、メンテナンス作業を行いました。リジッドラックを使ったテント内での作業を久しぶりに経験してもらいました。エンジニアからは「以前より楽しみながら参加できて良かった」「前回参加した時より、整備のレベルがかなり上がっていて驚いた」と、貴重な経験をしてもらえたようでした。詳しい整備技術の話に加え、普段の仕事についてもコミュニケーションをとり、打ち解けた空気の中、実りある活動を行うことができました。

今大会期間中に、以前開催した「レース応援ツアー」に参加いただいたお客様から販売店スタッフを通じてメッセージを頂戴したり、現地にて宇都宮市内の方から直接ご声援をいただいたり、その他にも温かい応援をたくさんいただくことができました。誠にありがとうございました。

次戦は、今シーズンの最終戦となる岡山国際サーキット (岡山県) ラウンドが11月末に開催されます。さらに強くなって、好結果に繋げることができますよう準備をすすめてまいります。今後とも、ご注目いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



ドライバー鶴賀のコメント

鈴鹿はその多角的に技術を試されるコース特性に加えて、私が当チームで初めてのレースで表彰台に登ることができた、思い出のある好きなサーキットのひとつです。当時より知識も技術も向上し、できることは増えていますが、それを結果に繋げるにはまだまだ修行が足りないと感じました。ただ雨が降っても降らなくても、チームの努力のお陰でコース上でのパフォーマンスに自信をもって臨むことができている、成長も感じています。あっという間に次が今年最後のレースとなりますが、改めて結果でお返しできるよう、全力で臨みます。ぜひ今後とも応援いただけますよう、お願い申し上げます。

